

令和4年度大阪府立吹田東高等学校

第3回学校運営協議会

日時：令和5年1月30日（月）

場所：大阪府立吹田東高等学校 会議室

委員	古本 隆	吹田市立千里丘中学校 校長
	城下 英行	関西大学社会安全学部准教授
	柏淵 眞理子	東山田青少年対策委員会委員長
	佐伯 勇	甲南女子大学教授
	竹岡 富美男	さくら北浜法律事務所 弁護士
	古川 益美	吹田東高等学校 後援会会長
	和田 大志郎	吹田東高等学校 PTA会長

校長	東 知佐子	吹田東高等学校 校長
事務局	出口 学	吹田東高等学校 教頭
	岡本 秀樹	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	山室 裕	吹田東高等学校 首席
	井上 一柊	吹田東高等学校 教諭
	尾関 日菜子	吹田東高等学校 教諭

◆開会挨拶

大阪府立吹田東高等学校 校長 東 知佐子

◆議 事

○報告事項

(1) 授業アンケートについて 《資料①》

(東校長より資料説明)

○第2回実施時期・方法

- ・令和4年度12月23日（終業式）マークシート方式
- ・アンケート結果 個人の集計結果（全員）、記述内容（該当教員のみ）を返却
- ・令和元年より質問項目を変更し4年間同じもので実施。（大阪府から指示されたもの）
- ・自身で数値やフリーアンサーに記述された意見については分析し対策を校長に報告（予定）
- ・第2回授業アンケートは8月～12月末までの結果となる。
- ・質問項目の8（興味関心）・9（知識技能）を重点的に見ていく。

○結果分析

【学校平均】

- ・令和元年度の大きく値が向上し、令和2年度にさらに向上した。令和3・4年度は令和2年度をさらに若干上回った。
- ・例年は1回目より2回目の結果の方がやや下がる傾向があるが、令和3・4年は変わっていない。
- ・学校教育自己診断においても、生徒の授業満足度は昨年度著しく向上した（82%）。今年度はやや下がった（77%）。

○本校の授業改善活動

- ・中間考査後より公開授業週間を実施し、各教員1回は他の教員の授業を見学し「授業観察シート」を指導教諭に提出することとした。
令和2年度から「授業観察シート」の提出又は研究授業の研究討議への参加を義務付け、授業観察が積みあがる形を取り、今年度は公開授業週間において、1人1台端末を使用した授業を研究授業の対象とし、研究討議を行った。1人1台端末を使用したグループワークやレポート提出、英語の音読テストの実施など、バリエーションに富んだ使用方法が見られた。

Q.委員 令和2年度から急激に上がり安定していると思う。

1学期から2学期に下がる傾向にあるが、それは何か理由があるのか。

- A. 令和2年度に向上したが、いろいろ分析した結果、特に理由は不明である。4月から2カ月間休校になり、各教科でオンデマンド教材を作成したり、授業が再開して有難みを感じたりしたことが要因に挙げられると思う。令和3、4年も授業内容を工夫する中で維持できている。
1学期から2学期に下がる傾向については今後授業や学年毎に分析していく。
- A. 下がる要因としては、生徒が1学期から2学期で授業に慣れてくることが考えられる。授業内容も毎年同じことを繰り返すのではなく、目の前の生徒のニーズに合わせて授業を組み立てる柔軟性がないと低くすると思われる。

(2) 学校教育自己診断について 《資料②》

(村上首席より資料説明)

○結果と分析

- ・アンケート全般では、令和元年より3年間生徒・保護者とも多数の項目で肯定的回答が増加してきた。今年度は昨年より若干減少しているが、ほぼ同様の傾向になっている。
- ・「吹田東高校に進学して(させて)よかった」の肯定的回答が、生徒は約84%、保護者は約87%と高い肯定的回答になっている。
- ・生徒指導については、生徒・保護者とも肯定的回答が7割近くになっている。
校則等については生徒指導部中心に見直しを行っているが、引き続き検討していく。
- ・今年度はコロナ禍の中、多くの行事を行い肯定的回答が増加した。また、生徒アンケートをきっかけにルールメイキングの会の活動で文化祭が1.5日開催となり、「学校行事が充実するように工夫されている」「自分自身は体育祭、文化祭などの生徒会活動やクラス活動に積極的に参加している」の値は上昇した。
- ・「授業」についての満足度が昨年大幅に上がったが、今年度は昨年より少し下がった。(R2 69% → R3 82% → R4 77%)
- ・コロナ禍において、今年度も地域との交流を行う機会が大幅に減ったため、その項目の肯定的回答は低いままである。また、国際交流については、昨年同様リモートでの台湾の学校と交流し、肯定的回答はさらに増加した。
- ・進路指導についての肯定的回答や学校の講習や青葉丘セミナー参加者の満足度はすべて88%以上となっている。
- ・「施設・設備」についての満足度は生徒・保護者とも高いが、さらに、各部屋のWi-Fi環境やプロジェクターの整備等を行い、その他の「施設・設備」においても改善を進めていく。
- ・With コロナの方針で活動したことにより、保護者の「公開授業や文化祭・体育祭、講演会などの学校行事に出席したことがある」の肯定的回答は75%に大きく上がった。
- ・1人1台端末についての質問を今年度は追加した。多くの授業で有効的に活用され、7割以上の生徒が使い方に満足している。
- ・Webページの閲覧率は例年低いが、在校生徒への連絡や情報等の多くはグーグルクラスルームで行っている。
- ・教職員に関しては「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」「人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている」「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」等で「よくあてはまる」の値が大きく上がっています。

(3) 令和4年度学校経営計画の達成状況について 《資料③》

(校長より資料説明)

○本年度の自己評価の達成状況の説明

委員 今年度もコロナ禍で地域の活動が行えていなかったが、2学期終わりぐらいから徐々に再開している。来年度はWith コロナで人数制限等を行いながら活動を行っていききたい。クリーンキャンペーンについては高齢者の方だけでなく、子ども対象の行事にもしたい。この地域の特徴を活かした幼小中高の連携活動を行っていききたい。

○協議事項

(1) 令和5年度学校経営計画について 《資料④》

(校長より資料⑤の学校経営計画及び学校評価の説明)

○めざす学校像

- ・前回(12月)の会議で検討し完成したスクールミッションから抜粋している。

Q委員 令和4年度と令和5年度のめざす学校像を比較すると、令和5年度は「高い自己肯定感に基づいた」ということを学校の教育方針にしているが、「自己肯定感」の概念をどのように考えているのか。日本の高校生は外国の高校生に比べて自己肯定感が低いといわれ、それは長年の日本の高校教育に原因があると調査では言われている。外国のように自己主張をする生徒を育て、今後どのような社会になるのかということが議論されているのか。もう少し時間をかけて考えるべきではないかと思われる。

A. 「高い自己肯定感に基づいた他者尊重の姿勢」ということから、本校生は自分をまず認めたくて他人を尊重し思いやるということが少し弱いと思われる。リーダーシップ研修はまさしくそのために行っている。

外国のような教育については国として考えるべきではないか。

自分達の目標を達成するためにコミュニケーションを取れるようになる。そのために自分の良さを認めた上で他人の良さを認められる生徒になるというメッセージである。

委員 自己肯定感が低いということは悪いことばかりでなく、日本の良い部分もあるのでは。

A. 自己肯定感を高めるではなく、「高い自己肯定感に基づいた他者尊重の姿勢を持つ」ということである。

Q委員 この「自己肯定感」とはどういう状況を具体的にイメージすればいいのか。

A. 自分を認めるということなど。

委員 人から信頼されたり、勉強や部活等の何かで自分に自信が持てるということもあるのでは。

委員 勉強や部活等何なくても自分を肯定できることが大事なのは。

A. 今は無いがこの様になりたいと目標を持つ事も大事では。

委員 大人でも自己肯定感を持つことは難しいと思う。いろいろな場面で声掛けを行い評価してあげることが大事だと思う。時代の変化はあるが、教員や保護者が見守り満足度が上がればいいと思う。

【令和5年度学校経営計画は承認された】